

令和7年度 部局経営目標

年度	令和7年度	作成日	令和7年4月1日
部局名	建設部	部局長名	川端 次男
(1) 部局の方向性(テーマ)			
1・人口減少抑制及び移住・定住促進対策 人口減少社会においても、安全・安心・快適に暮らせる魅力的で持続可能なまちづくりを進めるため、各地域の拠点の将来像を明確化する「真庭市拠点形成計画（立地適正化計画）【仮称】」や、空き家に関する総合的な計画である「真庭市空き家等対策計画」を策定し、市の基本的な方針や具体的な施策を定める。 空き家の購入及び改修等の補助金を活用するとともに、市有地を活用した若者や子育て世帯、移住者向けの賃貸住宅についてPPP手法による整備の検討を進めることにより、市内への移住・定住を促進する。 2・安全・安心のインフラ整備と維持管理 良好な道路環境の整備を推進し、強靱で安全な道路ネットワークの構築によって交流人口や関係人口の増加を促進し、関係機関との連携を強化しながら安全・安心なまちづくりと地域経済の活性化を目指す。 利便性の向上を図った公共建築の設計・営繕業務の推進を行う。 社会資本整備の基盤である国土調査の真庭市全域の早期完了を目指す。 上下水道事業の持続可能な経営の確保に向けて公営企業としての経営体制の強化を進める。 水道・下水道施設の改築・更新、老朽化した施設の更新統合等、ストックマネジメントによる維持管理費用の削減を図り、効率的な運営管理を目指す。 3・農林業施設の適正な維持管理 老朽化したため池の計画的な改修工事と不要なため池の廃止を推進し、農業の持続と地域の安全を確保するとともに、災害に強く、持続可能で安心して暮らせる地域づくりを目指す。 林道の通行の安全を確保するため、舗装工事、修繕工事を実施し、原木搬出量の増量を図るとともに、森林資源の循環利用を促進し、林業振興の推進を目指す。			
(2) 部局の重点施策			
1. にぎわいにあふれ豊かさを 実感できる真庭	(1) 持続可能な魅力あるまちづくりの推進 (2) 若者や子育て世代が安心して暮らせる住環境の整備 (3) 空き家を活用した移住定住の促進 (4) 民間賃貸住宅誘致に向けた事業手法の検討 (5) 誰もが安心して子供を産み育てることができる環境整備 (6) 「まにわらしさ」のある景観整備の推進		
2. 安心して暮らし続けるこ とができる真庭	(1) 協働による道路環境整備・市道の改良・維持管理及び橋梁・舗装の長寿命化 (2) 水道事業の有収率向上に向けた整備 (3) 下水道事業の維持管理費の縮減 (4) 下水道接続の推進 (5) 上下水道料金システムの更新を転機にDXの進化を図る		
3. 回る経済と脱炭素への挑 戦	(1) 農業用施設の点検及び計画的改修 (2) 基幹林道の全線舗装の早期完成		

(3) 事業成果目標	指標名及び目標値
1-①持続可能な魅力あるまちづくりの推進 ・中心市街地の都市機能整備や地域の拠点づくり、増加する空き家の利活用を通じて、若者、子育て世代、女性、移住者など、多様な世代に魅力的で持続可能な都市の構築を目指します。 ・令和3年策定の「真庭市まちづくり計画（都市計画マスタープラン）」に基づき、各地域の拠点の将来像を明確化する「真庭市拠点形成計画（立地適正化計画）【仮称】」の策定を令和8年度の公表を目標に進めます。 ・策定に当たっては、今年度見直し予定の「公共交通計画」や「公共施設等総合管理計画」など、関係計画との調整を図りながら、庁内会議や審議会、市民アンケートなどを効果的に実施し、職員や市民の意見を取り入れる機会を増やします。	指標：各種会議等による意見交換・聴取機会の数
	目標値：5回
	（令和6年度実績値：0件）
1-②若者や子育て世代が安心して暮らせる住環境の整備 ・令和6年度から検討を進めている「真庭市住生活基本計画」を早期に策定・公表し、若者の子育てや定住支援に重点をおいた住宅施策を、まちづくりと一体的に進めます。 ・先に策定した「真庭市住生活基本計画」を基に、策定から5年経過する「真庭市空家等対策計画」を改訂するとともに、空き家の利活用や危険な空き家の除却を進めることにより、移住定住の促進や地域の安全で安心な生活環境の確保を進めます。 ・「真庭市住生活基本計画」および「真庭市営住宅整備計画（真庭市公営住宅等長寿命化計画）」を基に、市営住宅の長寿命化改善事業を実施することにより、住宅困窮者の住宅確保に配慮しつつ、市民の資産である市営住宅の有効活用とライフサイクルコストの縮減を図ります。	指標：計画策定数
	目標値：2件
	（令和6年度実績値：0件）
1-③空き家を活用した移住定住の促進 ・地域みらい創生課や交流定住センター、各振興局（人口減少対策官）とも連携し、空き家の利活用や移住定住の促進を図ることにより、人口減少対策及び地域の活性化を目指します。 ・空き家の取得費用や改修費用、家財道具の撤去費用の一部を補助し、空き家の利活用を促進します。 ・地域で定住支援に取り組む団体に対し、奨励金を交付するとともに、積極的な制度の周知に取り組み、活動団体の増加による地域の活性化を図ります。 ・真庭市への空き家を活用した移住定住に興味がある市外の方に、実際の空き家や地域の魅力を直接伝えるためのバスツアーを企画し、移住定住の促進や関係人口の増加を図ります。 ・老朽化した危険な空家を除却する際の補助金の交付や、所有者の意識の醸成、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づく措置を行うなど、老朽危険空家等対策を行います。	指標：空き家関連補助金の活用による移住者数（社会増）
	目標値：30人
	（令和6年度実績値：25人）
1-④民間賃貸住宅誘致に向けた事業手法の検討 ・市が所有する未利用地を活用し、若者や子育て世帯、移住者向けの賃貸住宅を、民間事業者が建設・運用していく事業スキーム（PPP）により整備することについて、令和6年度に実施したサウンディング調査の結果に基づき、事業化に向けた検討を進めます。	指標：令和8年度事業化に向けた検討
	目標値：1件
	（令和6年度実績値：－）【新規】
1-⑤誰もが安心して子どもを産み育てることができる環境整備 ・子どもからお年寄りまでの幅広い年齢層を対象に、自然とのふれあい、レクリエーション活動、健康運動、文化活動、地域間の交流・連携など多様な活動の拠点となる、緑とオープンスペースの憩いの場を公民協働ポケットパークとして整備していきます。	指標：ポケットパーク計画箇所数
	目標値：2箇所
	（令和6年度実績値：0箇所）

1-⑥「まにわらしさ」のある景観整備の推進 ・真庭市景観計画に基づき、豊かな自然や歴史・文化による「生きた景観」と調和する杜市を目指し、市民の景観意識の醸成を目的として、令和6年度に作成した真庭市景観フォトブックを活用した「まちのスタンプラリー」を実施し、市民が「まにわらしさ」を体験する機会をつくります。	指標:啓発事業実施 目標値: 1 事業 (令和6年度実績値: 1 事業)												
1-⑦建築営繕業務の一元化を図る ・真庭市有施設の新築や大規模改修工事など建築営繕業務の一元化により、品質の向上と業務の効率化を図ります。また、木質化やユニバーサルデザインなどを取り入れた設計・営繕業務の推進を行います。	指標:建築工事の実施率 目標値:100% (令和6年度実績値: 100%)												
1-⑧職員の能力開発を進める ・職員が講習会等に参加することにより、地域資源の木材を活用した木造(CLT)建築技術やCO2削減に向けた先進技術等について知識を深め、建築物の利便性の向上と省エネルギー化の推進を図ります。	指標:講習会等の参加 目標値:課職員 2 回/人 (令和6年度実績値: 課職員 2 回/人)												
2-①国土調査事業の計画的推進 ・国土調査中の5地区の早期完了を目指し、補助金を最大限活用して、目標面積0.63km ² を完全実施することにより進捗率の向上を図ります。 ・勝山地区、落合地区の市街地を測量業務のほか現地調査を外部委託することで業務の効率化を図り、早期に終わるよう事業実施していきます。 (全体計画面積756.34km ² に対して令和7年度末、完了予定面積732.37km ²)	指標:現地調査面積 目標値:0.63km ² (全体進捗率96.83%) (令和6年度実績値: 1.23km ² 、全体進捗率96.75%)												
3-①道路環境整備事業の推進 ・地域や市民団体との協働による道路環境整備事業を推進することで、道路の安全と地域的美観を維持するとともに、市民の道路に対する愛着心を醸成し、地域の小さなしごとを創出し、共助の取組を通じて、地域全体で支え合い、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指します。 ・市民団体による市道の除草活動延長を指標とします。	指標:①除草活動延長 ②登録団体数 目標値:①400km ②220団体 (令和6年度実績値: ①376km ②207団体)												
3-②中国横断自動車道岡山米子線の全線4車線化と利用推進 ・市民が安全かつ短時間で広域的に移動でき、地域経済を支える人と物の流れを促進するとともに、地域の利便性と魅力を高めて交流人口や関係人口の創出・拡大を図るために、中国横断自動車道岡山米子線全線の4車線化の早期完成を推進します。 ・県や沿線市町と連携し、路線やインターチェンジの利用促進に取り組むとともに、引き続きNEXCO西日本等に事業の早期完成を要請して行きます。 R6年度交通量実績値 <table><tr><th>年度</th><th>①一部区間 (4月～5月)</th><th>②全区間 (4月～翌年3月)</th><th>備考</th></tr><tr><td>R5</td><td>2,615</td><td>8,445 (実績値)</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td>2,715</td><td>8,635 (実績値)</td><td>R5→R6:①1.02増</td></tr></table> ※一部区間:北房JCT～岡山総社IC間	年度	①一部区間 (4月～5月)	②全区間 (4月～翌年3月)	備考	R5	2,615	8,445 (実績値)		R6	2,715	8,635 (実績値)	R5→R6:①1.02増	指標:岡山道平均日交通量 目標値:平均 9,000台/日 (令和6年度実績値: 8,635台/日) 総社-北房 R1 9,145 R2 7,286 R3 7,335 R4 8,052 R5 8,445
年度	①一部区間 (4月～5月)	②全区間 (4月～翌年3月)	備考										
R5	2,615	8,445 (実績値)											
R6	2,715	8,635 (実績値)	R5→R6:①1.02増										

3-③市道の舗装修繕 ・利用者が快適に安心して道路を利用できるよう、インフラの長寿命化を図る舗装長寿命化修繕計画に基づいて順次舗装修繕を実施することで、日常生活の質の向上を目指します。 ・平成30年度に策定した舗装長寿命化計画(R1～R3)は完了したが、必要な舗装修繕を継続して実施するために計画期間を延長して老朽化が進んだ路線や地元からの修繕要望に対応します。 計画路線 ・R1_22路線:13.2km(実績_22路線:7.2km) ・R2_21路線:12.2km(実績_21路線:9.9km) ・R3_22路線:6.7km(実績_22路線:6.9km) ・R4_29路線:6.2km(実績_29路線:5.4km)※実績延長については一部概算値を含む ・R5_29路線:4.3km(実績_29路線:4.3km) ・R6_29路線:4.1km(実績_31路線:4.8km) ・R7_27路線:7.0km ●計179路線:53.7km(重複あり)	指標:路線数
	目標値:27路線
	(令和6年度実績値:31路線)

3-④橋梁等の維持管理 ・交通の安全安心と橋梁等インフラの長寿命化を図るために、法定点検を実施し、将来にわたる修繕コストの縮減と予算の平準化を実現するために順次調査設計を行い計画的に修繕工事を施工することで、暮らしの利便性向上を目指します。 【橋梁】 <table><tr><td></td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>点検</td><td>210</td><td>218</td><td>206</td><td>211</td><td>209</td><td>212</td></tr><tr><td>調査設計</td><td>22</td><td>20</td><td>20</td><td>2</td><td>7</td><td>1</td></tr><tr><td>修繕着工橋梁</td><td>7</td><td>13</td><td>12</td><td>9</td><td>7</td><td>17</td></tr></table> 修繕計画 N=91橋(R7.1現在) R2までの未修繕着工率 (76-7)／76=91% R3までの未修繕着工率 (76-(7+13))／76=74% R4までの未修繕着工率 (82-(7+13+12))／82=61% R5までの未修繕着工率 (89-(7+13+12+9))／89=54% R6までの未修繕着工率 (91-(7+13+12+9+7))／91=47% R7目標値 (91-(7+13+12+9+7+17))／91=30%以下		R2	R3	R4	R5	R6	R7	点検	210	218	206	211	209	212	調査設計	22	20	20	2	7	1	修繕着工橋梁	7	13	12	9	7	17	指標:修繕未着工率
		R2	R3	R4	R5	R6	R7																						
	点検	210	218	206	211	209	212																						
調査設計	22	20	20	2	7	1																							
修繕着工橋梁	7	13	12	9	7	17																							
目標値:30%以下																													
(令和6年度実績値:47%)																													

4-①水道の漏水対策の強化 予防保全の観点から漏水・断水などの水道事故や費用の発生リスクを低減し、浄・配水コストの縮減と投資の平準化を図るため、老朽管の基幹改良を計画的かつ効率的に行い、水道水の安定的な供給と経営指標となる有収率の向上を目指します。 ・勝山簡水月田地区有収率:82.0% (令和6年度:82.0%、令和5年度82.9%、令和4年度88.3%) 勝山簡水月田地区の老朽管改良工事(H28～R12)	指標:有収率(勝山簡水月田地区)
	目標値:88.5%
	(令和6年度実績値:82.0%)

4-②下水道事業のコスト削減 ・一般会計から下水道事業会計への基準外繰入金削減のため、コスト削減に取り組みます。 【不明水の削減】 雨水等の不明水が流入することで、必要以上に処理費用が発生しています。雨水流入箇所の調査・修繕により不明水を抑制し、処理費用を削減します。 有収率：89.7% （令和6年度89.7%、令和5年度89.1%、令和4年度91.5%、） ※有収率…浄化センターで処理した水量のうち、収入の対象となる水量の割合	指標:有収率
	目標値:91.5%
	（令和6年度実績値：89.7%）
4-③下水道施設の効率化 ・農業集落排水施設の統合を進める。宮地地区処理区と鹿田・美川地区処理区を令和9年度を目途に事業統合を行う。 令和6年度…詳細設計、電気設備工事 令和7年度…宮地処理区管路新設工事、機械設備工事 令和8年度…宮地中継ポンプ工事、宮地機械設備改修工事、電気設備工事 令和9年度…監視装置改修工事、太陽光発電工事	指標:設計及び工事
	目標値:年度事業の年度内完了
	（令和6年度実績値：年度内完了）
4-④下水道による水質保全 ・旭川の源流域にある真庭市は、下流域にきれいな水を供給する必要があります。下水道による生活排水の浄化により、河川環境の水質保全に努めます。 ・接続推進 ・下水道普及のPR(広報、浄化センター見学会など) ※水洗化率…下水道の整備区域内の人口のうち、下水道を使用している人口の割合 水洗化率：68.9% （令和6年度末68.9%、令和5年度末：67.9%、令和4年度末66.0%） 令和6年度：整備区域内人口23,001人、下水道接続人口15,844人	指標:水洗化率
	目標値:69.5%
	（令和6年度実績値：68.9%）
4-⑤水道の開栓・休止手続きの電子申請化 ・水道の開始・休止手続きについて、来庁することなく、24時間いつでも申請可能な電子申請を、MIT、広報紙、市ホームページのPR等により普及させ、働き盛り世代や市外在住者など、来庁しての手続きが困難な方の利便性を高めます。また、こまめな開始・休止を行いやすくすることで、長期不在時の予期しない漏水等のトラブル防止を図ります。 電子申請数：9件／月 （令和6年度平均9件／月、令和5年度平均10件／月、令和4年度平均9件／月） （実施開始年度：令和2年度平均2件／月）	指標:開栓・休止の電子申請数
	目標値:10件/月
	（令和6年度実績値：平均9件／月）
4-⑥上下水道料金の口座振替の推進 ・上下水道料金の収納について、口座振替への移行を推進し、水道利用者の料金納付の手間や納め忘れによる未納を減らすと共に、収納事務や収納コストの削減を目指します。 口座振替利用率 81.7% （令和6年度81.7%、令和5年度80.8%、令和4年度83.6%） 令和6年度：全使用者：23,492人うち口座振替利用者19,194人	指標:口座振替利用率
	目標値:84.0%
	（令和6年度実績値：81.7%）
4-⑦新料金システムの導入 ・料金システムの更新に合わせて、使用者の利便性の向上を図るとともに、業務の効率化、料金算定の正確性、経費の削減を行います。	指標:新料金システムの円滑な導入
	目標値:令和8年3月まで
	新規（削減効果額は令和8年度以降）

5-①省エネルギー設備等の導入促進によるゼロカーボン化の推進を検討する ・施設の新設・改修時や老朽化した設備・機器等を更新する際には、LED照明や高効率エアコンなど省エネ機器の導入を積極的に検討し、順次更新を進めていくことで、省エネルギー化及び温室効果ガス排出量の削減を検討します。	指標:可能性の検討
	目標値:100%
	(令和6年度実績値:100%)
6-① ため池の適正な管理の推進 ・市内にある老朽化が進む戦前築造の多数のため池は、「ため池の防災・減災事業の取り組み」により計画的な修繕を進めるとともに、近年利用されておらず適切な管理がされていないため池もあり、堤の決壊による下流域への被害を未然に防ぐため、ため池の廃止と周辺整備を進め、災害に強く持続可能な産業の振興と、将来にわたって安心して住み続けられる地域づくりを目指します。 (参考) 令和7年度は、ため池改修事業(県営事業 宮地地内江木池)全堤改修	指標:ため池廃止・修繕
	目標値: 廃止 0 全堤改修工事 1
	(令和6年度実績値: 全堤改修設計1) (宮地地内江木池)
6-② 林道の安全な通行の確保 ・林業振興促進のため、林道の危険箇所の修繕工事を実施し、通行の安全を確保することにより、原木の円滑な搬出と森林資源の循環利用を促進し、林業の持続可能な実現を図ります。 ・基幹林道(川上1号線)の未舗装区間7,178mについては、R4年度～R12年度で全線舗装施工を目指します。 ・林業振興のため、林道の開設に向け調査・検討を行います。 (参考) R6年度舗装新設実績 L=856m R7年度舗装新設目標 L=860m	指標:市内の原木流通量
	目標値: 132,000m ³
	(令和6年度実績値: 114,000m ³)